

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成23年1月3日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonatipublic.do?JCD=2172200210&amp;SCD=320">http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonatipublic.do?JCD=2172200210&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の尊厳が守られるケアを念頭におきながら、その方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮している。時にはご家族からの相談や要望にも耳を傾けご本人のみではなく、ご家族も満足していただけるよう心の通った寄りそうケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に系列のグループホーム・デイサービスや医師会病院・老人保健施設・特別養護老人ホームがあり、運営推進会議で緊急時・災害時の相互援助について話し合い、避難場所や夜間の対応について協力体制を築いている。理念が浸透し、職員の人事考課が行われ能力の育成に活かされている。看取りについても早くから家族と話し合い、医療機関とも連携し安心して終末期を迎えられるよう、勉強会を定期的に関き支援の方法について話し合っている。職員も「介護させてもらってありがとう」という気持ちをいただいている。ホーム長と職員との信頼関係が厚く、お互いを思いやる心を持って「利用者がその人らしく生きる」ことができるよう、穏やかでゆとりある支援をしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議時に、運営理念・職員の心得の唱和を朗唱すると共に、その理念を全職員で共有し、実践するよう常々意識し努めている	「住み慣れた地域の中で、自分らしく暮らしていただく」ことを理念とし、全職員が実践に向けた年間目標を作成している。職員会議で唱和し、自身の支援を振り返り、職員で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元公共施設や地域イベント、保育園の運動会に参加するなど交流できるよう取り組んでいる。又、近くの喫茶店に出向いたり周辺を散歩するなど地域とつながりながら暮らせるよう努めている	地域の一員として自治会に加入し行事に参加している。小学生の下校時の安全パトロールをしたり、保育園児と鼓笛・歌・手遊びを一緒に楽しみ、運動会では利用者の為のプログラムが用意され、日常的に交流している。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の御利用者様・御家族や面会にみえた方や地域の方に対して、認知症介護の支援方法について等アドバイスや、サービス利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度のアドバイスをもとに、運営推進会議で災害時の避難の対応について市消防署と協議しご家族や関係機関出席のもとで火災発生、通報訓練、煙の中を非難する訓練を行った	会議は隣接するホームと合同で行われ、利用者・職員の状況や活動報告、災害対策について活発に話し合っている。以前より、地域の方の参加をお願いしているが、なかなか参加が得られていない。	地域の人々との関わりや日頃のつながりは大切である。今後、頼れる隣人としての協力や、会議への参加が得られるよう働きかけることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い、連携を深めている	介護保険認定調査や法令改正等の連絡で訪問されたときに、相談している。又、包括支援センターに困りごとの相談や、情報提供を行う等連携し協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を職員会議を通じて理解徹底に努めている。入所されている御利用者様に抑圧感を感じさせない暮らしができるようなケアを目指している	身体拘束の内容や弊害について正しく理解できるよう、勉強会で話し合っている。日常の暮らしの中でも言葉がけに注意し、否定しないで傾聴し、利用者の思いを尊重し拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修会で学んだ内容を参考に職員会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施することで、正しい知識を理解し話し合い検討するような管理体制や職場風土の構築に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が後見人制度に関する研修に参加している。成年後見制度の対象となるケースはないものの、制度についての理解を深め、支援できる体制を作り活かしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には来苑時や運営推進会議を通じて管理者や職員に話しやすい雰囲気づくりを心掛けるとともに、ご意見を頂いたときには職員間で共有しケア・運営の資質向上に取り組んでいる	訪問時に家族から意見を聞いたり、遠方の家族には電話や手紙で意見を聞いている。又、運営推進会議の議事録を家族に郵送し、意見を引き出し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員間でも意見や提案がしやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、職員会議や日ごろのコミュニケーションで職員の意見やアイデアを反映するよう取り組んでいる	ホーム長は、意見や要望が出し易い雰囲気作りを心掛け、最近では、職員からの提案で隣接するホームの機械浴が利用できるようになった。出された意見はトップマネジメント会議で話し合い反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携やげんばに訪れる等、現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内勉強会においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上がはかれるような機会をつくっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所幹部職員で毎月会議・勉強会を実施することで個々の事業所で抱えている問題や活動状況を共有し情報交換できる場がある。また、他グループホームと合同で催し物を行い交流する機会をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談において今日までの生活歴や家族関係を把握するよう努めている。その中で、ご本人やご家族が抱える不安や思いを傾聴し、受け止めケアや入所生活に活かせる様早期からの信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入されるまでの御家族の苦労や経緯、求めていることについてじっくり話を伺い事業所としてどのような対応ができるのかご家族と話し合いながら早期に信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・御家族の想いを確認した上で、状況に応じて必要な支援・サービスを提案している。そのなかで、ホームとして出来る事、出来ない事を話し合い少しでも必要としている支援に添えるよう相談を繰り返し努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御家族と離れて暮らす不安や苦しみ、住み慣れた自宅と違った環境で生活することの寂しさに共感する姿勢・傾聴を念頭におき、利用者様が不安なく過ごしていただけるヒントを見つけ出す努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の今までの苦労や想いに寄り添いながら、訪問時には生活状況を細かく伝え情報を共有することで家族とともにご本人を支えていける関係を築くよう努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人との継続的な交流が出来るよう支援をおこなっている	家族の協力を得て行きつけの美容院へ行ったり、盆や正月を家族と共に過ごす利用者もいる。又、病院受診時に知人宅を訪ねたり、図書館の帰りに喫茶店に寄る等、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事の時間は職員も一緒にテーブルで利用者様の会話に加わりながら楽しく過ごす時間をもつようになっている。また、気の合った利用者同士で散歩や喫茶店・日光浴などの場面づくりの支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要におうじて相談にのったりその後の状況把握に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりやコミュニケーションの中から、思いや暮らし方の意向の把握に努めている。困難な場合には、御家族からの情報をもとにケアに活かしている	職員は、会話の中から利用者のつぶやきや仕草を見逃さず、又、根気よく少しずつ聞き出す努力をしている。利用者との信頼関係を築き、日々の生活の中から様々な思いを感じ取ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や生活環境等日々の関わりの中で把握し、暮らしの中で取り入れていけるよう努めている。その中で、プライバシーへの配慮を忘れないよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況、心身状態を記録し職員が情報共有し現状が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立ってご家族の思いや意見を聞き反映させる。職員全員で意見交換を行っている	全職員が参加してモニタリングを行い、利用者・家族の意見や要望をもとに、必要に応じて医師の意見も取り入れ介護計画を作成している。その後、家族に説明し確認を行い現状に即した計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに身体状況・日々の暮らしの様子を記録し、職員間で情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政・消防署・民生委員・駐在所・自治会長等の参加を呼びかけ、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築くよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、入所後もご本人・ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じてご家族の代わりに受診の付き添いも行っている	協力医の訪問診療が隔週あるが、入居時に本人・家族の希望を確認している。馴染みのかかりつけ医の受診時には家族の代行をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で看護職員に報告し、統一した支援ができるよう心がけている。看護職員不在時は電話にて相談できる体制をとり連携をはかっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の不安や混乱を最小限にし安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携を図りながら情報提供するよう努めている。入院中も1～2日に1度は看護職員が見舞うようにしている。また、回復状況により早期に退院支援へと結びつけられるよう多方面と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり随時意思確認しながら取り組んでいる	重度化は食事が取れなくなった時期を見極めとし、家族の希望を確かめ同意書を交わしている。医師・職員が連携を取りながら家族の意向を確かめつつ取り組んでいる。1年間に5人の看取りを行った年もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。また救命士による蘇生訓練も実施指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難経路の確保等設備点検を定期的に行うとともに、事業所だけの訓練ではなく、運営推進会議の場を利用し市町村担当者も巻き込んだ避難訓練等を実施し地域との協力関係の構築に努めている	運営推進会議を利用し消防署、近隣施設、市町村も巻き込んだ訓練を行った。災害時には近隣住民を受け入れる意向であり、備蓄も用意されている。しかし、地域住民の協力を得るまでには至っていない。	災害時に地域住民との相互協力は欠かせないので、是非協力が得られるよう努力されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけるよう努めている	一人ひとりのプライドを考え、言葉かけ等について会議で話し合い、工夫をしている。トイレの声かけには利用者個々に応じた呼びかけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせ声掛け、表情や反応を注意深くキャッチしながら、自己決定できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のコンディション、様子をみながら本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの利用者の方の生活習慣に合わせて支援し、馴染みの美容室で希望にあわせたカットをしてもらえるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを工夫し職員と同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べる雰囲気づくりを大切にしている	同じ材料を使いユニットごとにメニューを工夫している。誕生日の外食や、希望を聞いてメニューを作っている。利用者はテーブルを拭くなどで参加し、職員も一緒に食べ、楽しい雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を把握している。食事量・水分量も個別に合わせて確認するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所に行っていただき一人一人に声掛けし、見守りしている。ご自分で出来ない方は、毎食後のケアを行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやパットはどの時間帯にどの様なものを使様するか明確にし、ご本人の生活リズムに沿った支援を行っている	個々のパターンを記録に書いて職員が共有している。リハビリパンツ、オムツ、布パンツと使い分け、声掛けで自立への支援をしている。夜間は安眠を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、牛乳や十分な水分摂取の提供に取り組んでいる。また、腸の働きをよくするため、積極的に散歩や外出などにお誘いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉掛けや対応の工夫、入浴したい日・時間に合わせて入浴していただいている	入浴は週2回とし、毎日を希望する利用者もあり対応している。夜間に入浴を希望する利用者には足浴で満足してもらっている。今後、隣に建設されるホームで機械浴を利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。安定剤を飲まれている方の睡眠状況を把握している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能・副作用の説明ファイルを保管し、服薬時はご本人に手渡しできちんと内服していただき、服用できているかも確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。苑の畑の収穫や習字・お茶のパック詰め等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換やストレス発散の為、外気浴・喫茶店に出かけられる様支援している	天気の良い日は、利用者の体調に合わせて近隣への散歩や喫茶店へ出かけている。又、季節ごとにお弁当を持参して、お花見等に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心や満足に向けて少額の所持金を持っていただけるよう家族と相談し支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿い、家族に電話しやすい声掛けを行う、掛けられない場合は職員が支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている	居間の掘りごたつは懐かしい雰囲気があり、窓際のソファでは食事を済ませた利用者がゆったりくつろげるよう工夫している。又、居室から裏庭の畑に出て、野菜の収穫や草花の手入れを職員と一緒に楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子で過ごされる時は仲の良い入居者同士がクツロゲルスペースである		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・写真といった馴染みの品や思い出の品々が持ち込まれ、利用者の居心地のよさを配慮している	和洋2タイプの部屋が用意され、天井や蛍光灯は和室の雰囲気があり自宅を思わせる。お位牌や仏壇を持ち込んで、朝晩お勤めをする利用者もある。麦藁帽子がかけてある等居心地良く暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた時は、その都度、職員で話し合いご本人の不安材料を取り除く自立支援につなげる工夫をしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江1132		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonatipublic.do?JCD=2172200210&amp;SCD=320">http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonatipublic.do?JCD=2172200210&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議時に、運営理念・職員の心得の唱和を朗唱すると共に、その理念を全職員で共有し、実践するよう常々意識し努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元公共施設や地域イベント、保育園の運動会に参加するなど交流できるよう取り組んでいる。又、近くの喫茶店に出向いたり周辺を散歩するなど地域とつながりながら暮らせるよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の御利用者様・御家族や面会にみえた方や地域の方に対して、認知症介護の支援方法について等アドバイスや、サービス利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度のアドバイスをもとに、運営推進会議で災害時の避難の対応について市消防署と協議しご家族や関係機関出席のもとで火災発生、通報訓練、煙の中を非難する訓練を行った		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い、連携を深めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を職員会議を通じて理解徹底に努めている。入所されている御利用者様に抑圧感を感じさせない暮らしができるようなケアを目指している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修会で学んだ内容を参考に職員会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施することで、正しい知識を理解し話し合い検討するような管理体制や職場風土の構築に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が後見人制度に関する研修に参加している。成年後見制度の対象となるケースはないものの、制度についての理解を深め、支援できる体制を作り活かしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には来苑時や運営推進会議を通じて管理者や職員に話しやすい雰囲気づくりを心掛けるとともに、ご意見を頂いたときには職員間で共有しケア・運営の資質向上に取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員間でも意見や提案がしやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、職員会議や日ごろのコミュニケーションで職員の意見やアイデアを反映するよう取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携やげんばに訪れる等、現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内勉強会においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上がはかれるような機会をつくっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所幹部職員で毎月会議・勉強会を実施することで個々の事業所で抱えている問題や活動状況を共有し情報交換できる場がある。また、他グループホームと合同で催し物を行い交流する機会をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階において、今までの家族関係や生活歴、病歴を把握するよう努めている。また、ご本人の不安や要望に耳を傾け入所後の生活ケアに活かせるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至までの経緯やこれまでのご家族のご苦労に耳を傾け、ご家族が求めているものを理解、話し合い信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームとしてできることを伝え、ご本人・ご家族にとってどんな支援が今必要かを話し合い出来ることへの支援や対応を状況に応じて繰り返し相談している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側・される側といった一方的な関係や考えにとらわれることなく、共に過ごし、支え合うような関係づくりに努めている。また、共に暮らす中で苦しみや不安・喜びを理解し声かけできるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や日頃の状況を細かく伝え、家族との情報共有に努めている。利用者本人にとってもご家族の支えは重要不可欠であるため協力関係が築けるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームになかなか出向くことが出来ないご家族にも写真や手紙・絵葉書などで状況の報告をおこなっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士が関わり合える様、席の配慮をしたり、お互いの生活に負担や心理的な圧迫を感じさせることのないようひとりお一人の精神状態と行動に気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談にのったち、再入所していただきやすい体制を心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ご本人一人ひとりの思いや希望を確認し把握するよう心掛け声掛けしている。意志疎通が困難な方にはご家族から情報をえたり、表情や行動からご本人の思いを汲み取るように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の思いや、今までやってきた習慣などをじっくり傾聴し、日々の生活に出来る限り取り入れていけるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の体調や心理状態をスタッフが把握できるように細かく記録し、よりよいケアが行えるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族との関わり合いのなかで、職員全体で利用者様の日常生活に関する意見を出し合い、充実した生活を送って頂けるように介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報交換(申し送り・口頭での説明・介護記録)や日々のケアの気づいたこと、発見したことを細かく記録し状況に合ったケアの見直しをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・相談になどにも臨機応変に対応し、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や地域の保育園・小学校・中学校の様々な関わり合いのなかで、地域住民の一員として暮らしていただけるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族へ協力医療機関について説明し希望を確認している。また、かかりつけ以外での受診や通院もご本人やご家族の希望に応じて対応している。看護職員の通院介助もっており、様子や変化を伝えるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、体調や些細な表情の変化を見逃さないよう状態変化に注意し、早期発見に努め看護職に報告、適切な医療につなげている。また、看護職不在時は介護記録や電話対応にて確実な連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関して看護職やかかりつけ医から医療機関に情報提供するとともに、1～2日おきに見舞うようにしている。長期入院になることでご本人やご家族に負担とならないよう回復状況等の情報交換を家族や病院関係者で行い早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時からホームの方針について説明し、早い時期からご本人・ご家族の意向を把握するように努めている。終末期には、ご家族・主治医・職員間の情報の共有や統一した方向性を定め一丸となって取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。また救命士による蘇生訓練も実施指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難経路の確保等設備点検を定期的に行うとともに、事業所だけの訓練ではなく、運営推進会議の場を利用し市町村担当者も巻き込んだ避難訓練等を実施し地域との協力関係の構築に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の存在や、これまでの人生の成り立ちを十分に理解し、人生の先輩として接し尊敬の気持ちを持ってケアを行うよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションのなかで、利用者様の話す内容から何を望んでおられるのかを汲み取りご本人の生きる気力を引き出すことができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のなかで、同じ時間に同じ事をするのではなく、一人一人の体調や天候に合わせて外出支援や散歩などが出来るよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服が汚れた時は直ちに交換し整髪・散髪の支援はご家族・ご本人の意向に応じて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好や体調・嚥下の状態に合わせて、個別の食事形態のものが提供できるよう支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は介護記録に基づき日常の行動、体調変化に応じて利用者様のペースに合わせてメニューや調理の工夫をし、無理なく食事が摂れるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず義歯や口腔内の洗浄をおこなっている。ご本人で出来る方は見守りしながら磨き残しがないかの確認をしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の個別の排泄状況やパターンを把握し、ご本人の表情などからトイレのサインを見逃さず迅速に対応できるようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や便の状態から排便の状態を見極め、自然な状態での排便を促すよう努めている。また、こまめな水分摂取や食物繊維の多く含んだ食品の提供に配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に配慮し、家庭用サイズのお風呂にゆっくりと入っていただけるよう、ご本人に希望を確認し入浴していただくよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や体力を把握し、天気の良い日には外気浴を行うなどし安眠のできる環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員がいつでも目を通すことができるよう設置している。利用者の状況に応じ確実に内服していただけるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様とのコミュニケーションや話の傾聴に努め、やりたいこと、望んでいることを見つけ出し楽しみにつなげるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や天候・季節により、散歩や喫茶店に出かけることが出来るよう支援をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないようにまた、自己管理能力を考慮しながらご本人やご家族ともよく話し合い満足していただけるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望により絵葉書や手紙などがご家族に必ず届くよう対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が落ち着いた和風のデザインになっており、利用者様の目にも優しい光が届くように工夫している。トイレは使用後清潔にし、不快感を取り除くように配慮している。玄関やリビングには季節の花などを飾り日々のうつりかわりがわかるよう努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内やロビーにソファーや椅子をご用意し利用者様が思い思いの場所でゆったりとくつろいでいただけるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がし用されていた家具や寝具などを持ち寄り利用者様の精神的な負担がかからないように配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D-1,2を用いて、利用者様の現時点での残存能力の状態を把握するとともに、歩行範囲や車椅子での動線確保など、安全にかつ自由に動いていただけるよう工夫している		